



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和6年9月9日
文責：校長 江上 知男

始業式後の1～2週間…学級の重要な時期です！



2学期がスタートして約1週間…、台風休校があったものの、各学級では順調に学習活動が始まりました。始業式後の1～2週間は、とても重要な期間だと考えています。2学期における学級の決まり事を確認したり、係活動や給食、掃除の役割分担をしたり、2学期をとおしての行動目標を決めたりします。それらの基になるのが、学校教育目標や年間を通した各学級目標です。

各学級目標は、担任と子どもたちが相談しながら決めますが、その方法等は様々です。低学年は、子どもたちが出すキーワードに担任の考えを混ぜる方法で形にしていく方法が多いようです。高学年になると、班の代表が言葉や文章を持ち寄って会を開くなど子どもたち中心に決められることが多いようです。学級目標を設定することによって、学級全体の方向性を共有し、一緒に成長するための大切なステップになると考えます。別の言葉で表現すれば、「心をそろえる」ということだと思います。

1日1日を積み重ね、3学期が終わる時に「学級目標に決めたことが達成できたかどうか」が明らかになります。各学級とも「良い評価」ができるよう、実りの2学期になることを願います。

教育実習生がやってきた！

9月の第1週から、2名の教育実習生が来られています。フレッシュな先生の登場に、子どもたちも大喜びです。

内野叶絵さん(環太平洋大・4年)は本校出身で2週間、甲斐深愛さん(九州ルーテル学院大・3年)は4週間と期間は違いますが、担当の先生から指導を受けながら、教育現場における子どもと関わることの楽しさや授業等の準備の大変さを経験されています。



打合せ中の内野さん(左)・甲斐さん

私は、お二人と話す時間をいただきましたが、話を聞く真っ直ぐな視線と相手意識を持った受け答えに、私の方が「謙虚さの大切さ」を教えられた気がしました。お二人には、「いつの日か必ず教師となって教育現場に帰ってきてください」とお願いしました。本校での先生や子どもたちとの出会いや実習経験を通して、「自立したたくましい社会人」になれることを期待しています。頼もしい限りです！

親は子の「鑑(かがみ)」 子は親の「鏡(かがみ)」

漢字というものは面白いもので、例えば「親」という漢字は、「木の上に立って見る」という組み合わせで構成されています。「親」は、高所大所から温かく見守るのが本来の姿であることに気づかされます。また、「鑑」や「鏡」も「かがみ」と読みますが、親子のあり方を考えさせられます。

子どもは善悪の判断がつかないから、親の言動を「鑑」として、ソックリそのままマネをしますので、子どもの姿は、自分を映し出す「鏡」ということになります。ですから、親は善き「鑑＝模範」である必要があります。成人した私の娘や息子が、未だにタンスの開けっぱなしや服の脱ぎっぱなしをするのは、父親という「鑑」に問題がある…と、連れ合いに長年指摘され続けています。

子育てから開放されたはずの私でしたが、最近孫の世話が…。孫がお茶を飲んだ後、「あーっ！」と息を吐くのは、私のビールを飲む姿にそっくりだとか…。再び、「鑑」を意識させられる毎日です。